

第一号議案

2024年度活動結果報告

昨年度、ナルク本部と枚方拠点「天の川クラブ」は共に「創立30周年」を迎え、会員皆さんの熱意とご協力により、記念行事はいずれも盛会となりました。

活動実績では時間預託活動、奉仕活動ともに計画を達成しました。

会員数は、新入会員 39 名、年度末会員 646 名、前年比 12 名の減少でした。

下記に具体的な活動結果をご報告します。

(1)「創立30周年」～記憶に残る活力に満ちた1年になりました。

①本部に「ナルク発展委員会」が発足し、5つの重点項目別に「実行委員会」で推進。特に全国会員同士の繋がりを深める「ナルリンピック」は、枚方拠点から延べ141名の会員が運営や出場出演に携わりイベントを盛り立てました。

②ナルク「天の川クラブ」の「創立30周年記念行事」

6月に記念定時総会と併せ記念式典を開催し178名の参加。「天の川クラブ」の発展に尽力された会員35名に感謝状を贈呈しました。10月開催の記念イベントには来賓・会員合わせて200名が一堂に会し、共に祝い更なる発展を誓い合いました。

(2) 事業活動推進で地域との連携強化と健全な拠点運営

①「生涯学習情報プラザ」（受託事業）は、4年契約の初年度につき万全の運営に努めました。ロングランのミニ体験講座はパワーポイント等の魅力的新講座の提供で市民のPCスキル向上に寄与し、年間延べ2000名の受講者でした。

②「生活支援員養成研修」（受託事業）は6月と11月の2回実施。広報ひらかた3月号にナルク生活支援員の活動内容が紹介されました。

③生活援助訪問事業「ナルクすこやか」（認可事業）は、開設8年目を迎え支援員の高齢化により支援員不足が生じました。

(3)「楽しいナルク」「安心のナルク」「感動のナルク」

①会員相互扶助活動は、利用と提供の双方向の活動を円滑に推進するように努め、「ひとり暮らし支援」も利用会員に安心を提供しました。

②地区会は、活動の原点として参加者増を図り総実施回数18回、参加者424名で、地区会員同士の親密感の醸成に努め、スタッフ会メンバーが各地区会に参加。会員とのコミュニケーション増と活動活性化を図りました。

③ホームページは新鮮な情報を迅速に反映させ、幅広い世代に訴求しました。

④会員研修は、健康をテーマに2回開催。いずれも大変好評で参加者計136名。「コーディネーター養成講座」は、受講者32名うち新規修了者26名で今後の活躍を期待。交野拠点・寝屋川拠点からの受講もあり有意義な講座でした。

(4) 地域密着の貢献活動

「ナルクデー2024」は地域との共存をテーマに140名の参加で実施、10月の「クリーン&ウォーク」も61名参加。地域環境美化に大いに貢献しました。

(5) 北河内地区連絡協議会は拠点間の連携で課題の共有化と改善を図りました。

1. 時間預託活動

近藤秀子・角山正男・一宮順世

会員相互扶助活動は、会員が地域で安心して生活できるように取り組みました。しかし、高齢者を取り巻く環境の変化が著しく、活動の対応に苦慮しています。その結果、時間預託活動は計画に対し実績は 102%となりました。

(1) 会員相互扶助活動

①家事・介助支援は低調でした。地区会や地区サロンの活動が活発になることで会員相互の助け合いが広がると考えましたが結果には繋がりませんでした。家事支援の低迷は高齢化により施設入所や、介護保険利用者の増加が大きな要因と考えます。また「ひとり暮らし支援の安否確認利用者」が少ないのは対象者の理解を得るための取り組みが不足していたと反省しています。

②庭・植木の手入れは、計画に対し実績は 97%となりました。

提供者の高齢化等により活動の低下が心配されましたが、剪定スキルの高い方が入会され、技術指導のほか、松を中心に活動し、剪定活動の核として結果を出しました。又、女性方々の提供は絶大なものとなってきました。

昨年は酷暑が9月末まで続き、秋期剪定活動は2か月（10月・11月）の短期間となり提供者確保と日程調整に難渋しました。

③ハウスヘルパーは、計画に対し実績は 128%となりました。

「包丁研ぎ」の利用が例年より増加しました。地区会に出張の「包丁研ぎ」が企画され会員に大変好評でした。年間を通じ1人での提供活動でした。

④送迎は、計画に対し実績は 126%となり、前年対比で 135%と大きく利用が増えました。

新規の利用者は少なく、リピーターの利用が増えました。

新たな提供者が3名増員となりました。又、今年度も無事故で推移しました。

⑤パソコン指導は、計画に対し実績は 77%となりました。

固定提供者が施設入居され、新規利用の対応が出来ませんでした。

パソコンを更新する方が減少したからか、基本ソフトの更新サポートが予想を下回りました。

定期的個人指導のような勉強会形式のサポートが好評でした。

「情報プラザ」のパソコン体験講座を受講する会員が増えています。

(2) 福祉施設活動

福祉施設活動を通して地域社会に貢献し、会員自身の生きがいにもつながる大切な活動と捉えて実施しています。

「エイジフリー・ライフ香里園」は、お茶会でのスタッフの着付けの他、入居者と交流する書道・お花・絵手紙の活動が順調でした。そして「ちょこっと物作り」での制作活動やカラオケの活動も始まり盛況でした。また、今まで奉仕活動として活動していたオカリナやウクレレなどの演奏活動、マジックも時間預託活動としての活動となりました。

「エイジフリー・ライフ星が丘」は、書道・絵手紙・作品制作・むかし遊び・麻雀・話し相手と数多くの教室活動が活発です。

以前からの屋上菜園での野菜作りも入居の皆さんに喜ばれています。

活動メンバーそれぞれが自分の力を発揮し入居の方に寄り添う活動に「楽しかった！」との声に会員自身も元気をもらっています。

また、新しい施設・住宅型有料老人ホーム「枚方ガーデンテラス」での活動も、2月からオカリナ演奏や麻雀そして話し相手と新しく始めました。

2. 奉仕活動

辻 洋子・一宮順世

奉仕活動は、地域社会への貢献という大きな意義を持っており、積極的に取り組み大きな成果を上げました。

(1) 福祉施設支援活動

施設利用者との交流を通して、高齢者や障がいを持った方への理解を深め、地域社会に貢献すると共に、会員自身の生きがいを見つける有意義な活動として実施しています。

「サンポエム」では、喫茶サービスやレクレーションの手伝いで通所の皆さんの笑顔が広がっている様子に喜びを感じています。

「エイジフリー・ライフ星が丘」や「その他福祉施設」では、夏祭りに盆踊り同好会が多数参加し、場を盛り上げました。

また、マジック同好会やオカリナ、マンドリンの演奏など施設を訪問し喜んで頂きました。

「エバーライフ御殿山」は、活動を16年間継続しましたが、双方の高齢化もあり、毎月1度の活動が出来なくなりました。今後は、単発的な同好会等の活動となります。

(2) 子育て支援活動

「子ども安全見守り隊」は、地域で活動者が増加し大いに伸びました。

「ファミリーポート」の花壇チームは、草刈り・園庭・菜園管理の活動を継続しました。

(3) 環境美化活動

環境美化活動は、元気で仲良く健康的に清掃活動に取り組んでいますが活動員の高齢化に伴い活動者の減少が目立ち始めています。

「ナルクデー2024」を4月13日3会場で実施。140名参加。

「天野川クリーン&ウオーク」に過去最高61名参加。

(4) その他外部活動

①長年活動を継続している「赤い羽根街頭募金」活動には9名参加しました。

②「青色防犯パトロール」は、

枚方警察署パトロールカーと合同パトロールを実施。(4/17)

枚方警察、学校と第1回合同ランニングパトロールに参加。(10/11)

③「ハンドマッサージ活動」はサプリ村野で開催された「2回目の小学校」や地域包括支援センター松徳会主催「健康マルシェ」などに参加しました。

3. 事業活動

佐野友保・近藤秀子・和田亮吉

(1) 事業B：生涯学習情報プラザ（受託事業）

枚方市文化生涯学習課と緊密な連携で、下記の内容を主体に取り組みました。

- ① ミニ体験講座は、パワーポイント講座の取り組みを進めました。スタッフ全員のアイデアとスキルアップで丁寧な説明と講座を実施し、受講者の増加を図ることが出来ました。ミニ体験講座受講者 2,010 名（前年度 2,006 名）でしたが、新規 PC 導入で 11 月以降受講者が増えています
- ② コロナ対策は、完了しましたが従来どおり感染防止対策の取り組みを進めました。施設利用件数 726 件（前年度 749 件）でした。利用者は 10,526 人（前年 9,088 人）で微増となりました。
- ③ パソコンの新規導入に取り組みウィンドウズ11の導入を進めました。情報セキュリティ面からUSBによる情報管理が不可となり本庁と同じ管理方法の転送手順の導入に取り組みました。
- ④ 枚方市と4年間の受託契約による新体制の推進に取り組みスタッフの増員とスキルアップを図り課題を解決する取り組みを推進中です。

(2) 事業C：枚方市生活支援員養成研修（受託事業）

2024年度は、6月、11月、2回実施し受講申込者者22名でした。

受講者数が少ない分、講師とのコミュニケーションが増える利点はありました。

受講者増を図るため「広報ひらかた」に支援員の重要性を説く特集記事掲載を要望していましたが、3月号の高齢者の就活特集枠に盛り込んで頂きました。予てより要望していた受講テキストの改訂版発行も決まりました。

(3) 事業D：生活援助訪問事業「ナルクすこやか」（認可事業）

生活援助訪問事業は、再認可後2年目の活動を開始し、要支援者月平均57名の方々の支援を行いました。

支援活動については、支援員の高齢化がすすみ、地域包括支援センターからの新規の支援依頼に対し、若手の支援員が不足のため十分に対応することが、出来ませんでした。

4. 同好会活動

向井 範雄

同好会活動は、テニス部と「コスモス」が解散し、本年1月より「カワセミ」が休部となりました。新設はありませんでした。単に会員だけの活動ではなく、ウクレレやオカリナ、マジックは施設を訪問し、地域社会にも貢献しました。

5. 会員活動促進

向井範雄・西川昌子

会員活動は、会員相互の連携と親睦を深め双方の顔の見える活動を目指しました。

(1) 地区会

コロナ終息以降各地区で積極的に開催され、又内容についても趣向を凝らして特徴のある地区会として参加者も増えつつあり活性化に繋がっています。

又、地区によっては毎月サロンを開催され好評です。

地区会は、18回実施され、参加者424名で前年414名を上回りました。

(2) 会員研修

会員研修は、次の研修を実施しました。

①「お薬のことを知っておこう」

実施日：7月10日(水) 参加者53名（一般市民含む）

薬の種類、形、飲み方、副作用、災害時の常備薬などを学びました。

②認知症早期発見と予防

実施日：10月2日（水）参加者83名

認知症の予兆やヘッドマッサージなどの予防を学びました。

③コーディネーター養成講座

実施日：2月19日（水）受講者32名 修了者26名

他拠点からも参加者がありました。（交野6名、寝屋川3名、本部1名）

(3) イベント

①創立30周年記念定時総会・式典 6月 6日（木）178名参加

②創立30周年記念イベント 10月16日（水）200名参加

③本部第1回ナルリンピック11月15日（金）・16日（土）141名参加

(4) 活動区分別交流会

各分野の活動会員が活動推進に際して課題の共有化、情報交換を図り、活動のレベルアップの為に取り組み、延べ17回、参加者185名の実施でした。

6. 事務局活動

岡本年昭

①事務局担当の絶対人員が少ない中、一部の方に巾広く担当いただくなど取り組み、当番を始め、実績入力やその関連業務、会報手配り準備等停滞することなく対応しました。

②活動実績入力は、専門知識が必要な中、適時適切に対応することが出来ました。

③拠点運営に欠かせないデータ、資料について、ファイリング管理も含め、適切に管理し、必要な時にタイミングよく確認出来るよう努めました。

④現在本部で新会計システムの開発推進中（枚方拠点から3名参加）

7. 広報・渉外

向井範雄

①会報「天の川」について、年間を通じて必要な情報をタイムリーに掲載し、広報紙として会員全員に伝わる紙面づくりに努めました。

②毎月、ナルク本部会報と会報「天の川」を公共施設25ヵ所に配布、ひらかた市民活動支援センター発行の「ひらせんナビ」にナルク記事を掲載してPRし、新規会員獲得に努めました。

③ホームページの内容を見やすくタイムリーな更新、役立つ情報の掲載等、ナルクのイメージ向上に取り組みました。

④枚方市民活動支援センターが主催する企画「学生春のボランティア体験」に参加し、「天の川クラブ」は、楠葉中央公園の清掃に学生と一緒に活動しました。